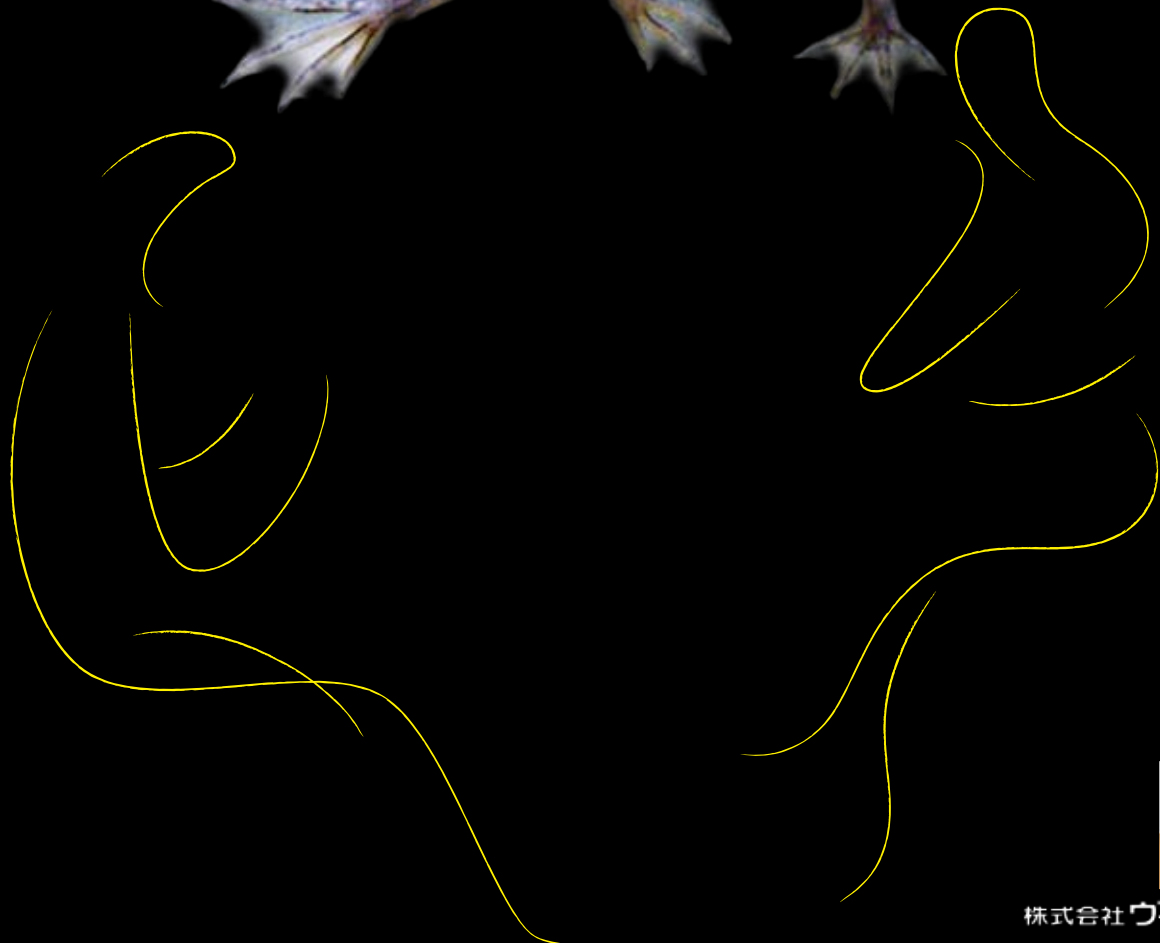


男と女の不完全マニキュアル

土星の男と女

薄井ゆづじ



株式会社 ウィアックス

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51
彗星	花火	軟禁	気球	雨女	記憶	銀河	信号	流星	疾走

土星の男と女

疾走

「愛してるわ〜！」

叫びながら私の前を走り過ぎていく女がいる。突然どこからともなく走ってきて、私の前を通過するとき、叫ぶのだ。愛してるわ、と。そのまま、どこへともなく走り去っていく。

何度もそういうことがあって、私は女がどんな人物なのか興味を持つようになった。ものすごい速度で通過するので、その風貌はおぼろ気にはかわからない。女性だということが、顔かたちや胸のあたりの膨らみ、そして声によってわかるだけだ。

愛してる、と女は叫ぶ。周囲には、私しかない。ということとは、女は私を愛してる、と言っているのか。それにしても、なぜ走っているのだろう。あんなに忙しく走る必要が、どこにあるのだろう。

今日も女は疾走してきた。私は意を決して、はじめて声をかけた。

「ねえきみ」

「愛してるわ〜！」

女は走り去った。私の声が聞こえたはずなのに、立ち止まる様子も見せず、いつものように全力で走り去っていった。

それから毎日のように声をかけたが、何度やっても同じことだった。私は作戦を変えることにした。私も走

ることにした。併走しながら話しかければ、返事くらいはするだろう。そうすれば女の真意がわかる。私は知りたかった。なぜ、あのようなことを叫びながら私の前を通過するのか。

待つうちに、今日も女が現れた。私は走り出した。が、女はあっという間に私を追い抜きざま、いつもの言葉を叫び、地平線の彼方に消えた。

速すぎる。併走どころか、とても追いつけない。私は鍛錬した。なんとか女の速度に近づけるよう、毎日走る練習をはじめたのだ。そして女が出現したとき、猛スピードで助走をはじめた。女が近づいてくる。間もなく追い抜かれる。だが数秒程度の会話ならできるはずだ。私は用意しておいた言葉を言った。

「私を愛してるのか」

「そうよ」

「なぜ走ってる」

「生きてるからよ。愛してるわ〜！」

女は走り去った。それ以上、私の足は追いつかなかった。

作戦を変えた。私も走らなければならぬ理由はない。電動自転車を購入し、それで女を追いかけることにした。最初からこの手を使えばよかった。私はほくそ笑みながら女が出現するのを待った。わずかの併走時間に、女が私にとって好ましい顔立ちをしているのを知った。あんな美しい女が私を愛しているというなら、私も彼女を愛したいと思うのだ。

いつものように女が現れたとき、私は電動自転車にまたがって、ぴたりと併走した。

「やっと、落ち着いて話ができるね。きみの名前は何ていうの」

「ふん」女は私を鼻で笑った。「卑怯なことしないで。何、それ。電動自転車？　せめて自分の足で漕ぐタイ

プの自転車にできなかったの？」

「それだと、きみに追いつける自信がなかったんだ」

「男の人って、みんなそう。そういうずるいことするなら、私はあなたを愛したりしない。私と同じ速度で走れる人じゃなければ、私は愛したりできないもの」

「訓練して、いつかはきみと同じ速度で走れるようにするよ。いまはきみとゆっくり話がしたいんだ。走るのをやめて、どこかで静かに話さないか」

「何を言うの」女は走りながら私を、明らかに軽蔑した目で見た。「女というのは、走りつづける動物なの。立ち止まれば死んでしまうのよ。走って走って、全力で走り抜けないと気が済まないの」

「でも、落ち着いて話がしたいんだ」

「女は忙しいの。走りながら恋をして、走りながら結婚して、走りながら子供を産んで育てるの。それが理解できない男なんて、女には興味がないの」

「死ぬまで走りつづけるつもりなのか」

「当たり前でしょう。私を愛してくれるなら、あなたも一緒に走って」

「そんなに速くは走れないよ」

「速さの問題じゃない。私と走りたいかどうかなの」

「わかった、走れるようにしてみせる」

私は猛特訓した。あの女が求めるなら、世界新記録だって出してみせる。数か月の特訓の末、私はやっと女と、なんとか併走できるまでになった。

「一緒に走れるようになったみたいね」女は満足そうに言った。「愛してるわ〜！」

薄井ゆうじ（うすいゆうじ）

1949年茨城県生まれ。イラストレーター、デザイン会社経営を経て、『残像少年』で第51回小説現代新人賞を受賞。『樹の上の草魚』で第15回吉川英治文学新人賞を受賞。主な著書は、『天使猫のいる部屋』『くじらの降る森』『12の星の物語』など。



ちょっと見文庫

男と女の不完全マニュアル
土星の男と女

発売日 2012年9月25日

著者 薄井ゆうじ

編集 栗田孝子

装丁 2010

企画 林秀和 西門直 大西健之 梶川悦子 志田淳

発行者 小川巧次

発行所 株式会社 **ヴィアックス**

〒164-8677

東京都中野区弥生町2-8-15

TEL 03-3299-6009

<http://www.viax.co.jp/>

無断転載・複製を禁じます。

© Yuji Usui 2012

この作品は2000年11月から2009年4月、月刊『アップルタウン』誌に連載したものに加筆修正したものです。